

「緒方富雄賞」を受賞して

山口大学医学部附属病院 検査部

検査 H17 年卒、西岡 光昭

この度、日本臨床検査同学院より「第 40 回緒方富雄賞」を受賞いたしました。

本賞は、日本臨床検査同学院の初代院長である故・緒方富雄先生が、昭和 60 年（1985 年）の同学院設立 10 周年を記念して制定されたものです。臨床検査の技術や教育を通じて医療の発展に大きく貢献した臨床検査技師または衛生検査技師に授与される栄誉ある賞です。緒方富雄先生は、梅毒の「緒方法」を開発した梅毒血清反応の世界的権威であり、東京大学名誉教授を務められました。また、江戸時代の蘭学者・医師であった緒方洪庵の子孫として、その精神を受け継ぎ、医療教育と研究の発展に尽力されました。このたびの受賞に、驚きとともに大きな喜びを感じております。

実は本賞の存在を知ったのは、2019 年に当院の水野秀一技師長（当時）が受賞された際でした。「こんなに素晴らしい賞があるのか！」と驚いたものの、まさか自分が受賞することになるとは夢にも思いませんでした。

今回の受賞にあたり、ご推薦いただきました山口大学大学院医学系研究科 臨床検査・腫瘍学講座の末廣寛先生に、心より感謝申し上げます。また、同講座教授の山崎隆弘先生、前教授の日野田裕治先生、高知大学時代の指導教員であった竹内啓晃先生にも、多くのご指導を賜りました。本当にありがとうございます。さらに、私が就職したばかりの頃から何かと気にかけてくださった前山口大学医学部附属病院検査部 副臨床検査技師長の岡山様（現在も非常勤職員として勤務）には、遺伝子検査業務のみならず、臨床検査技師としての心得やキャリアの方向性まで幅広くご指導いただきました。

特に忘れられないのが、「若いうちに日本臨床検査同学院の試験を何でもいいから受けて、資格を取っておきなさい！」という力強いアドバイスです。当時は「そんなに資格が重要なのか？」と半信半疑でしたが、今となっては岡山様の慧眼に脱帽するばかりです。その言葉を胸に資格取得や学位取得に励み、気づけば今の自分があります。

今後は、臨床検査分野の教育と研究の発展に貢献し、若手の臨床検査技師の皆さんが資格取得や学位取得にチャレンジしやすい環境づくりにも取り組みたいと考えています。そして、私のライフワークである消化器癌を中心とした新たな診断技術の開発にもさらに力を注ぎ、多くの人々の役に立つ成果を生み出したいと思っています。

今回の受賞は、ひとえにこれまで支えてくださった皆様のおかげです。この感謝の気持ちを胸に、今後も臨床検査技師としての道を全力で歩み続けますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

